

浜田ダムだより

第 2 号
平成18年1月

浜田ダム管理所

石見小学校学習会 & 現場見学会開催

石見小学校の5年生は、総合的な学習の時間に「ふるさと学習」として浜田川、浜田ダムを通して自分たちの生活を見つめる学習を行っています。

10月11日、その学習の一環として浜田ダム職員が石見小学校を訪れ、児童76名、先生4名の前で浜田ダムについて説明をしました。

また、12月1日には同児童が浜田ダムを訪れて、ダムやその周辺、管理所を見学しました。

現地見学は時折雨が降り、寒い中で開催となりましたが、児童みんなが真剣に説明を聞き、鋭い質問を投げかけるなど、この学習に対する意欲を感じました。

説明には専門用語等難しい内容もあり、どこまで理解してもらえたのか、こちら側の反省点も多々ありますが、これを機に浜田ダムの役割を知ってもらい、今後の学習や生活に活かしてもらえたらと思います。



石見小学校にて



現地 (浜田ダム) にて

§ 浜田ダムの見所

浜田ダムは何もない山の中にありますが、季節毎にその姿を変え、ダム本体とダム湖、周辺の景色が相まって、季節感漂う景観を作り出しています。今回は、そんな浜田ダムの雄姿の一部を御紹介したいと思います。これから少しずつ暖かくなり、春を迎える頃には、満開の桜がダム周辺をピンク色に染めてくれます。宴会を開く広い場所はありませんが、是非一度、見に来てください。



年末の降雪で、真っ白な雪化粧をまとった浜田ダムとダム湖
(H17.12.26 撮影)

春にはダム湖周辺に植えられた桜が満開となり、浜田ダムを鮮やかに飾ります

(例年の見頃は3月下旬から4月上旬です)

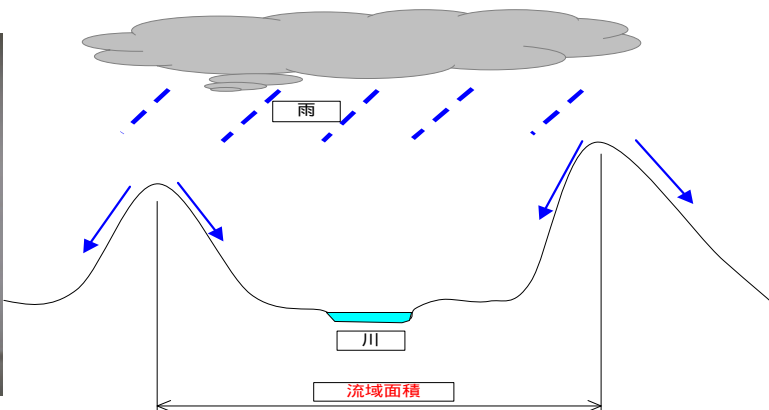


ダム関連用語解説

ここでは、ダムに関する用語について、「たまたに耳にするけど意味がわからない」とか意味を間違っていて理解されていると思われる用語の一部を紹介していきたいと思います。

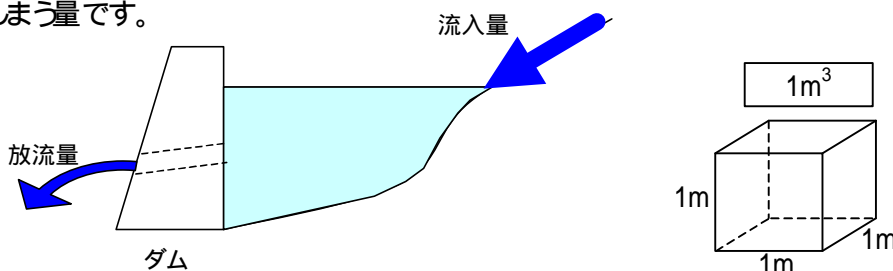
流域面積

流域面積とは、その川に水を供給する地域の面積のことで、よく間違われるのが川の面積(川幅×川の延長)です。一般的に山の尾根を境に流域がわかれます。浜田ダムの流域面積は33.8km²です。(下図参照)



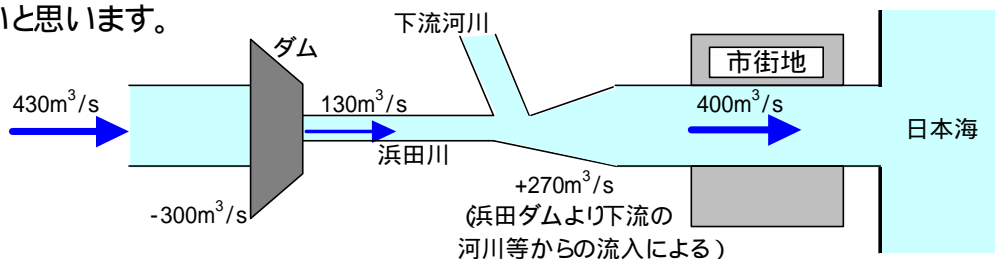
流入量、放流量

流入量とは、ダムに流れ込んでくる水の量のことで1秒あたりに流れ込んでくる水の体積 (m³/s) で表します。放流量とは、ダムから下流の河川へ流す水の量のことで、これも1秒あたりの水の体積 (m³/s) で表します。過去に浜田ダムにおいて記録された最大流入量は昭和63年の豪雨災害の時で583m³/sです。これはプール(縦25m、幅15m、深さ1.5mと仮定)が約1秒で溢れてしまう量です。



§ 浜田ダムのしくみ

前回はダムの貯水池について説明しました。今回は浜田ダムの洪水調節機能について説明したいと思います。



浜田ダムでは流入量130m³/sを超えると洪水調節を開始し、最大で430m³/sの洪水量のうち300m³/sをダムに貯めて、130m³/sだけ下流に流します。これにより、下流の浜田大橋地点で、700m³/sの洪水が400m³/sに調節されます。上図は洪水調節時の流量の概念図です。

編集後記

浜田ダムだより第2号を発行しました。今回は見学会の様子、ダム用語の解説を掲載しました。ダム関連用語について「この言葉の意味が解らない」等、疑問・質問がありましたら、遠慮なくお問い合わせ下さい。また、浜田ダムに関する疑問、質問や本誌に関する御意見、要望等ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。本誌は浜田土木建築事務所のホームページにも掲載しています(PDF形式)。バックナンバーも掲載していますので是非ご覧下さい。

お問い合わせ先 浜田ダム管理所 TEL:0855-22-0136 FAX:0855-22-5176 本誌担当 福島
浜田土木URL <http://www.sctc.or.jp/doboku/hamada/index.html>
(本誌バックナンバーは浜田土木TOP 事業紹介 各ダムのコーナーへ)